

かくのみ思ひくんじたるを、心も慰めむと、心苦し  
存続「たり」体 意思「む」終  
サ変・用 下二・未 四段・用

がりて、母、物語など求めて見せたまふに、げに  
接助・順接確定  
下二・用 下二・用 ⑤作者↓母 副詞

おのづから慰みゆく。紫のゆかりを見て、続きの見  
四段・終 上二・用 主格

まほしく覺ゆれど、人語らひなどもえせず、誰も  
願望「まほし」用 下二・已 接助・逆接 副詞 打消「ず」終  
打消「ず」体断定「なり」用 下二・未 打消「ず」終 サ変・未  
いまだ都價れぬほどにて、え見つけず。いみじく  
下二・未 副詞 形容詞・用

心もとなく、ゆかしく覺ゆるままに、この源氏の物語  
「え」打消で「不可能」を表す。 副詞  
形容詞・用 下二・体 形容詞・用

一の巻よりしてみな見せたまへと心の内に祈る。  
下二・用

親の太秦にこもりたまへるにも、ことごとなく、この  
(つまずて) 存続「り」体 ⑤主人公↓仏  
主格 四段・用 ⑤作者↓親 形容詞・用

ことを申して、出でむままにこの物語見果てむと思へ  
接助・逆接 打消「ず」終 仮定「む」体 意思「む」終  
④作者↓仏 下二・未 下二・未 四段・已

見えぬ。いと口惜しく思ひ嘆がるに、をばなる人  
下二・未然 形容詞・用 四段・未 接助・順接 自発「る」体 断定「なり」体  
の田舎より上りたる所に渡いたれば、「いとうつくしう  
完了「たり」体 完了「たり」已 副詞  
四段・用(イ音便) 形容詞・用(ウ音便)

生ひなりにけり。  
④完了「ぬ」用 詠嘆「けり」終 四段・用(イ音便) 形容詞・用(ウ音便)

などあはれがり、珍しがりて、帰るに、「何をか奉ら  
④をばなる人↓主人公 係助  
四段・用 四段・用 四段・体 四段・体

む。まめまめしきものは、まさなかりなむ。ゆかしく  
意思「む」体 強意「ぬ」未推量「む」終 形容詞・用 形容詞・用  
伝聞「なり」体 意思「む」終  
したまふなるものを奉らむ。」とて、源氏の五十余巻、  
⑤をばなる人↓主人公 ④をばなる人↓主人公  
(ひつ) 櫃に入りながら、在中将・とほぎみ・せり川・しらら・  
四段・用

あさつづなどといふ物語ども、一袋取り入れて、得て  
四段・体 下二・用 下二・用

帰る心地のうれしさ(ぞ)いみじき(や)。  
係助 間投助詞 形容詞・体 四段・体

ただこのように、ふさぎこんでいるのを、私の心

を慰めようと、心配して、母が物語などを探し求め  
て見せなせるので、本当に

自然と慰められていく。源氏物語の若紫の巻を見て、  
続きが見たいと思うけれど、人に相談などもするこ  
とができず、誰も

まだ都になれていない頃で、見つけることができな  
い。たいそう

じれったく、見たい(読みたい)と思つままに、「こ  
の源氏物語を一巻から全て見せて(読ませて)下さ  
い」と心の中で祈る。

親(母親)が太秦にこもりなせるときにも、(自分  
もこもつて)他のことではなく、

このことを申し上げて、「寺から(出たら、この物  
語を読み終えよう」と思つけれど  
読むことはできない。たいへん残念で、嘆いている  
と、おばである人が

田舎から上京して、その住んでいるところに行った  
ところ、  
「とても可愛らしく成長しましたこと」

などと感心して、珍しがって、帰るときに、「何を  
差し上げましょうか。実用的なものは、良くないで  
しょう。

欲しがっていらつしゃると聞いているものを差し  
上げましょう。」と言つて、源氏の五十余巻を、  
櫃に入れたまま、在中将、とほぎみ、せり川、

しらら、あさつづなどという物語を一つの袋に  
入れて、もらつて

帰る気持ちの嬉しさは大変なことだったよ。